

生徒が発信する住民の尊い功績が地域の美化や活性化に寄与

協会会長賞 宮崎県 延岡市立岡富中学校

大きな川が幾筋も流れる水郷の町、延岡市。市の中心部に位置する同校の目の前には大河のひとつ、「五ヶ瀬川」が横たわる。その五ヶ瀬川堤防沿いは、多くの生徒の通学路になり、桜や菜の花が咲き誇る憩いの場として現在、市民に親しまれている。しかし、かつてはごみが散乱する殺風景な堤防だった。そこを地域の憩いの場にしたいとの思い一心で、たった一人の住民が桜の植樹を開始。徐々に参加者が集まり、やがて、市の名所に生まれ変わった。

一方で、同校でも 2003 年から学校単独で堤防沿いなどの清掃に取り組んでいたが、そうした住民たちの活動を知り、2016 年から協働で実施。生徒は、「延岡探検隊 imotako プロジェクト」と名付けて、住民と協力して堤防沿いの清掃や花壇の手入れに取り組む。さらに、延岡の良さを「探す」「創る」「発信する」活動として、堤防で行われる市民手づくりの祭り「延岡花物語」にも参加。環境意識向上につなげるために、リサイクル素材で作った風車を堤防沿いに設置、風車アートとして毎年、市民の目を楽しませている。すべて生徒会が中心となって企画し、設置から撤収までを行っているのが特徴だ。昨年は、市内の中学校 19 校に風車の作成協力を呼びかけたところ、風車目標本数 1000 本に対し、1500 本を設置することができた。

桜の植樹を最初に始めた住民の松田庄司さんは、「生徒が外に向けて情報発信することで、メディアが取り上げ、話題性を生みました。結果、ごみのポイ捨てが減少し、市民の意識が変わってきました」と効果の大きさをかみしめる。

その松田さんの功績を後世に残すために、生徒は紙芝居を手づくりした。それを、環境教育出前授業の一環で、小学校や幼稚園に出向き、読み聞かせを行いながら、広く発信。

今年度は、さらにアピールするべく、生徒だけで実施してきた風車作成を、保護者や住民にも参加してもらうよう準備を進めている。一人の住民が静かに始めた美化活動が、生徒の力強い発信力や実践力により、地域を巻き込む大きなうねりに発展している。



宮崎県 延岡市立岡富（おかとみ）中学校

学校長：栗田 茂樹（あわた しげき）

生徒数：308 名（2021 年 11 月末現在）

住所：宮崎県延岡市本小路 75 番地 2

電話：0982-21-6494

アクセス：JR「延岡」駅から徒歩約 15 分

上：生徒の通学路にもなる五ヶ瀬川堤防、2 番
目左：堤防清掃でポイ捨てごみを回収、右：手
づくりの紙芝居を小学生に読み聞かせ、3 番目
左：風車を堤防沿いに設置、右：桜と菜の花と
風車で彩られた堤防の光景、下：住民とともに
五ヶ瀬川堤防の魅力を生徒